ご あ い さ つ

森田　憲司

一年間以上の空白が生じてしまったが、こうして『13、14 世紀史料通信』の 24 号を発行することができた。ただし、目次をみていただければお分かりのように、これまでの総まとめのような号になっている。これには以下のような事情があるので、ご報告をしておきたい。

単純には、次の２つの理由。１つは、出版、発送の原資となっていた、森田の関係する科学研究費その他の経費が今年度で終わってしまうということである。もっとも、年に１号であれば、ポケットマネーでも出せるし、幾分かのカンパをしてくれそうな方も何人かは思い浮かぶ。また、送料は、子供の時から溜まり溜まった切手の捌け場として考えれば、５号以上は何の問題もなく支出できる。だから、製作、発送の部数は若干減るとしても、経済的にはたぶんやっていけるとも考えた。

より大きいのは、森田が定年で奈良大学を退いたことである。

まず第一には、作業スペースの確保が難しい。とくに発送作業のスペースだが、他の場所でやる手間を考えるとぞっとする。

それ以上に、私が最も力を入れてきた新着資料の紹介のための手段の限界が大きい。

掲載した総目次を見ていただければわかるように、内外の研究者の皆さんのご協力のおかげで、力作論文の掲載が少なくない。新紹介の資料を用いた研究が多いことも相まって、本誌は当初の想定以上の地位を、学界に占めることができたと思う。

ただ、私自身は情報誌であることあることにこだわり続けてきたから、史料情報へのアプローチの問題は重要である。さいわいなことに、奈良大学図書館には無理を言えるし、京都大学文学部の図書室も卒業生だから、閲覧複写に不自由はない。また、研究会の仲間が所属する、とくに龍谷大学の深草や大宮の図書館については、いろいろと閲覧の便を図っていただいてきた。あるいは、人文研の文献センターもある。しかし、これらは既存の図書の利用への便宜の提供であって、新刊の石刻書を選別し、入手する方途が見えなくなってしまった。これもつきつめればお金の問題で、私が関係する科研費、その他の研究費があらたに恵与されれば、しばらくはしのげるのだが、今のところ具体性はない。

以上のようなことから、この雑誌は 24 号で一休みにしたい。その一方で、上のような問題が解決すれば、こっそりと 25 号を再発行するかもしれないので、その節はまたご協力をお願いしたい。

私どもの、元朝石刻の研究会がはじまったころ、当時の世話人であった杉山正明氏が、「ここで読んだ成果は、誰が見つけたとか、誰が読んだとかではなく、みんなのものとして、使いたい人が使えばいい」と、つねに語っていたことを思い出す。この雑誌も、科研費の成果の学会への還元であるとともに、日本の図書館における石刻書の所蔵の貧しさと偏りへの想いから、資料が誰でもどこからでもアプローチでき、使いたい人が使えるようにと思ってはじめたものであるだけに、情報誌としての本誌の休止は惜しくはある。なお、資料の共有という点では、1700 点ほどの元朝石刻の拓影の収録箇所をまとめた「元朝拓影目録」を、近いうちに奈良大学のレポジトリーにアップするので、それも見ていただけたら

と思う。

以下に、事務的なことを書く。

1　本誌のバックナンバーは、現時点では基本的に各号とも在庫がある。お申し越しくだされば送付させていただく。すでにお送りしている図書館などでも、欠号というものが生じがちなことは、私自身の経験からも少なくないことなので、必要なら、どうぞおっしゃっていただきたい。返信切手は不要だが、送付先を書いた封筒は同封していただきたい。

2　また、本誌や上に書いた「拓影目録」に限らず、森田がこれまでに書いたものについては、零件をふくめて著述目録の形でまとめ、『奈良史学』に掲載させていただいた。石刻関係のものも含まれるので、ご参照いただければさいわいである。この雑誌にご縁のあった方々には、可能な限り単冊でお送りするつもりでいる。

3　なお、休むのは本誌であって、「石刻史料を読む会」ではない。会は、４月以降も継続して開かれる予定である。メンバーの老齢化が気になっているので、是非若い方にも参加していただきたい。

（もりた　けんじ）